



Title	北村卓教授退職記念号刊行にあたって
Author(s)	和田, 章男
Citation	Gallia. 2019, 58, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/72865
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

北村卓教授退職記念号刊行にあたって

本年3月末をもって、大阪大学言語文化研究科の北村卓教授が定年退職されます。北村先生は文学部フランス文学研究室の助手を3年務めた後、言語文化部に着任、計36年の長きにわたって大阪大学で教鞭をとられました。われわれの世代では珍しく大阪大学文学部からの生え抜きで、学生時代から教員時代にかけて、一度も大阪大学から離れることがなく、学生時代を合わせると実に47年間という半世紀近い年月を大阪大学で過ごされたことになります。

といっても北村先生の活動範囲はとても広い。その中心はボードレール研究であり、学生の時から現在に至るまでぶれることはありません。特に日本におけるボードレール受容についての研究はライフワークと言ってもいいでしょう。さらにはフランス近代詩を中心とする日仏の比較文学研究についても多くの成果を挙げ、長年文学研究科の比較文学専門分野の兼任教員も務めていただきました。そして特筆すべきは宝塚歌劇研究です。伝統的な文学研究の枠を破りながら、フランス文化・芸術の受容という観点からも、宝塚歌劇の歴史的研究は実り豊かであり、このテーマによっても北村先生は数々の招待講演や論文発表を行ってこられました。日本フランス語フランス文学会では、関西支部長を務められたあと、現在は副会長の任にあり、またフランス語教育振興協会（APEF）の理事も務められ、フランス文学研究のみでなく、仏検をはじめとする日本におけるフランス語教育の進展にも大きく寄与しておられます。

北村先生は私と同年齢なのですが、早生まれのため1年早く定年を迎えられました。これまで私は北村先生の後を引き継ぐことが多く、不思議な縁を感じます。大学院に入学したときの先輩で、フランス文学研究室の助手のポストは北村先生から引き継ぎ、私が言語文化部に着任したときも先輩としてお世話になりました。仏文学会の関西支部長役も後を継ぎました。そして定年退職もおのずと後を継ぐことになります。

「石橋の帝王」とは、北村先生の異名です。豊中キャンパスのある石橋界隈は飲み屋街として意外なほどに奥深い。その隅々まで知っているのが「石橋の帝王」という異名のゆえんです。本号に掲載されているエッセイには北村先生にまつわる思い出や伝説が語られています。「帝王」としての伝説も少なくありません。長い付き合いながら、その真偽のほどは不明です。石橋にも50年近い間に様々な人間模様が展開したことと思います。ボードレールにゆかりの夜のパリと北村先生にゆかりの夜の石橋は、どこかで通じているのかも知れません。定年後は、故郷の丹波篠山に帰り、畑仕事などカントリーライフを楽しまれると聞いています。でも時々石橋に「出没」されることを願いつつ、これまでの本会への多大なご貢献に感謝申し上げます。

(和田 章男)